

平成〇〇年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	京都大学大学院人間・環境学研究科	職名	博士後期課程	助成金額	200,000 円
氏名	島村 幸忠	メール アドレス	pygmalioneffect0505@gmail.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
<p style="text-align: center;">椿椿山と文人煎茶 —西日本の文人たちとの比較を通じて—</p>					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>申請者は、頂いた助成金を用いて、東京都板橋区立郷土資料館へ赴き、資料及び器物の調査を行った。助成金の使用用途は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査旅費（京都・東京板橋区）：30,000 円 ・滞在費：30,000 円 ・資料購入費：60,000 円 ・機材購入費：80,000 円 <p>東京都板橋区立郷土資料館では、主に『椿椿山日記』の記録を行った。この日記は、江戸後期の文人・椿椿山（1801-1854）が天保 8 年（1837）の正月から天保 10 年（1839）の六月までのあいだに認めたものである。同日記については、これまで展覧会及び展覧会図版等において部分的にしか公開されていなかったが、今回の調査にて、すべての箇所を画像資料として入手することができた。また、その結果、以下のような非常に重要な情報を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椿山が当時読んでいた茶書について。 ・椿山が注文した茶道具、及びその値段、また、それらの寸法について。 ・書画会の開催記録、及び、そのために作られた招待状。 ・『煎茶小集』を製作するに至った茶会の招待状。 ・その他に催されたであろう茶会の招待状、茶会で用いられた道具の取合せ図、及びそれらの寸法。 ・椿山が注文した茶の名及び、その値段について。 ・椿山が京都の煎茶家の手前を手本とし、それを学んでいたことをうかがい知ることができた。 <p>本調査の当初の目的であった、『煎茶小集』における二つの炉の使用については、茶会で用いられた道具の取合せ図にも登場し、当時関東圏を中心に広まっていたことは確認されたが、その意義についてはいまだ明らかとなっていない。それについては、今後の研究課題としたい。しかし、椿山及び、同日記を扱った研究はいまだなされていないので、本調査で明らかとなった以上で示した情報は、椿山における煎茶についてのみならず、特に、東海地方から江戸にかけての、江戸時代の煎茶の文化史の研究にとっても非常に意義深いものであるに違いない。以上の調査に基づく成果は、以下に示す学術誌にて発表する予定である。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
島村幸忠	「椿椿山と文人煎茶—西日本の文人たちとの比較を通じて—」	『あいだ／生成』(8号)	平成 29 年 11 月投稿予定		